

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に据え自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会で活躍できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「文武両道」、「組織で勝つ」のスローガンの下、人権尊重を柱とした教育実践をする学校
○児童・生徒像	「磨く」、「挑む」、「思いやる」の生徒行動指針を下に、自分自身のよさなどの特性を理解し、向上していく。また、定めた目標などを実現しようと努力し、自他の違いを認め、それを尊重する心をはぐくむことのできる生徒を育成する。
○教師像	仕事への責任感と使命感あふれる気持ちを持ち、組織を大切にし、組織で職務に当たり、一人一人の生徒に寄り添い、「やさしく、厳しく」指導できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

現 状

生活指導の徹底が基盤となり、はじめと明るさが両立した学校生活が営まれている。また、学校の校訓である「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組む姿勢が見られる。

◎ 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし一部に、学校生活に馴染むことができず、仲間との関係構築ができずに不登校や教育相談を受ける生徒もいる。また、家庭生活で自分の気持ちを十分に伝えることができない生徒もいる。

◎ 教職員について

教職員として、職務を理解し、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多く、強い使命感をもっている。また、「ベテラン、中堅、若手」の年齢バランスのとれた職員構成である。

◎ 保護者・地域社会について

開かれた学校づくり協議会が中心となって、学校への支援態勢を構築している。特に、PTAはもとより九中後援会並びに「おやおふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

成果と課題

◎ 成 果

学習面では、放課後に指名制の補習等のE S L（エクストラ・サプリメンタリー・レッスンの略）を行い、個に応じたきめ細かな指導を充実した。また、定期的な教科コンテスト、土曜スクールや夏季補充授業等による基礎的・基本的内容の徹底、各種検定の推進など、生徒の主体的な学習を促す切れ目のない学力向上策を実施している。

部活動においては、全員参加で活力ある生徒の育成を図るとともに、都大会はもとより、関東大会に出場する部活動が多数あり、生徒の励みとなっている。

◎ 課 題

1 確かな学力の定着のため、これまでの取組を見直し改善・充実すること、新たな指導体制や仕組みを構築することが課題である。

2 保護者や関係諸機関との連携により、生徒の主体的に学ぶ意欲を高めること、自立心を育成していくことが課題である。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		25	26	27	28	29
1	学力向上（生徒の学力の定着を図る）	○	○	○	○	○
2	健全育成（生徒の心身の健全育成を図る）	○	○	○	○	○
3	小中連携による活力ある生徒の育成	○	○	○	○	○

5 平成28年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上	
A 今年度の成果目標		平成28年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
基礎的基本的な学習内容の定着		目標通過率 65 パーセント	
B 前年度の取組み内容			
項目		具体的な方策	
教科の習得状況の向上		月1回程度の確認テストと補習指導	
個に応じた指導		長期休業中に5日、定期考査前後に放課後7日（計28日）の補習	
指導法の改善		生徒指導に係る研修2回、授業に係る研修4回	
C 前年度の成果と課題			
<p>学力向上の柱となる授業の充実のため、年間指導時数及び各教科指導時数を十分確保できた。</p> <p>また、学力調査において、昨年度目標通過率を0.4ポイント下回ってしまったが、正答率は1.7ポイント上昇し成果が上がっている。学校全体として3教科とも区全体の平均点を超えているが、学年別・教科別に見ると区平均点を大幅に超えているものとそうでないものが混在する。各教科の課題を正確に分析し解決を図ること、個別の支援を丁寧に行っていくことが課題である。</p> <p>なお、成果を挙げているESL、朝自習、夏季補充教室、土曜スクール、教科コンテスト等については、今後も継続して指導していく必要がある。</p>			
D 今年度の目標実現に向けた取組み			
項目		達成基準	具体的な方策
教科の習得状況の向上		基礎計算未定着生徒数 20%以下	数学習熟度別指導、定期的確認テストの実施及び放課後の個別補充指導
個に応じた指導の充実		区調査 数学通過率 65%以上	考査前考査後指名補充学習教室参加7日
指導法の改善・充実		校内研年4回以上の実施	教科指導法改善に係る研修4回

重点的な取組事項－2		健全育成	
A 今年度の成果目標		達成基準	
学校生活の充実・向上		学校充実度調査の「満足」を70%以上	
B 目標実現に向けた取組み			
項目		達成基準	具体的な方策
学習活動への意欲の向上		生徒学校生活充実度調査における頑張り率 65%以上	到達度測定テスト等の小さながんばりの（スモールステップ）の評価と励まし
部活動への積極的参加		生徒学校生活充実度調査における参加率 65%以上	全生徒対象の部活動説明の実施並びに1年生仮入部期間の延長で継続重視を周知
学校行事の主体的な運営参加		生徒学校生活充実度調査における充実率 65%以上	委員会、係活動の立場・役割の明確化と生徒になるべくやらせる自治活動の活性化

重点的な取組事項－3		小中連携による活力ある生徒の育成
A 今年度の成果目標		達成基準
小学校との連携による教科等の研究を一層進め、学力向上や体力向上に結びつける		全教科等による授業研究実施、教材開発、研究実践の成果と課題を分析し紀要を作成
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
小中一貫教育の視点にたった教育活動の推進	教科等連携の中身が深まるよう、成果と課題を分析し連携事業を企画・立案・推進する。	推進委員会を4回、全体会を2回、分科会を4回、授業研究を4回程度実施する。
中1ギャップの緩和及び交流活動等の実施	関係3小学校児童の九中入学者を増やすとともに、中学生による小学校事業への支援・参加	小学校6年生の中学校授業・部活動体験夏季休業日における小学校補充学習への参加（教員補助、支援活動）
体力の向上と活力ある生活の推進	運動やスポーツへの関心や体力が高まったと感じた生徒を80%以上	スーパーアクティブスクールとして体力向上に関する研究を深め、関連する教科の授業や体育活動の充実を図る。